

## 観音前遺跡 第66地点

遺跡名	観音前遺跡
よみがな	かんのんまえいせき
調査地点	第66地点
主な時代	平安時代（約1200年前）
調査地	大字水子字谷ツ合 2674-1、2674-2 他
調査面積	1495.8㎡のうち、約98㎡
調査期間	令和4年9月27日～10月4日
調査内容	<p><b>【確認された主な遺構】</b> 平安時代竪穴住居跡1軒、 古代～中世の掘立柱建物跡1軒</p> <p><b>【出土した主な遺物】</b> 須恵器坏、土師器甕</p> <p><b>【概要】</b> 水子地区の台地上に位置する観音前遺跡は、志木方面から城の下を通り、浦和バイパスと交差する坂道「岡の坂」の北側を中心に広がっています。弥生時代、古墳時代、平安時代を中心とした集落遺跡として知られており、今回の調査では、平安時代の竪穴住居跡と、古代～中世の掘立柱建物跡が1軒ずつ確認されました。掘立柱建物は、そのまま地面の高さに床を設けていたか、あるいは地面と床板の間に空間を設けて「高床式」にしている建物です。今回見つかった掘立柱建物跡からは遺物が出土しなかったため、時期の特定は難しいですが、柱と柱の間隔が3mを測る大ぶりなものであることや、柱穴に堆積していた土の様子から、少なくとも、中世より古い時期のものと思われる。</p>



掘立柱建物跡の調査状況



平安時代の竪穴住居跡



古代～中世の掘立柱建物跡



掘立柱建物跡を構成する柱穴の一つ